

2014 国際教養科 NEWS 3月

国際教養科 今年度の活動のまとめ

今年度は本校が文部科学省より「英語力指導改善事業研究拠点校」に指定されて、2年目を迎えました。国際教養科としては日常の授業活動では、主に、①1年次では、2年次での卒業論文（英語）作成を意識したプレゼンテーションの充実、②2年次では、卒業論文作成とプレゼンテーションコンテストの実施を生徒の総合的な英語力向上のための効果的な活動として重点的に、取り組んできました。一方、対外的な学習活動では、昨年に引き続いて4月に春季英語合宿（一泊二日）を行い、7月・8月に善光寺での英語ガイド研修と県内の新規 ALT 24名の案内、9月に秋季英語合宿（二泊三日）、3月に海外語学研修（二週間）などを実施することで、生徒が教室の授業だけでなく、日常生活全般で英語に触れる機会をできるだけ多くし、生徒が英語を使う必要性を認識し、英語学習のモチベーションを高め、英語力の向上につなげることを目指しました。また、信州大学との高大連携事業（小池先生とゼミ生による発展的な異文化理解の授業体験・信大 YOU 遊フェスティバルでのスタッフ参加）、各種コンテストや大会への積極的な参加、学校での国際交流、海外派遣（米・仏・中・韓）、講演会などを普通科の生徒も含めて活発に行うことで、大学の先生や大学生から学習面や進路面で大きな刺激をいただき、生徒が自己表現力を高めたり、異文化理解や国際理解に努め、国際化する社会に対応できる能力を伸ばすことを目標にしました。さらに、HP で今年度の国際教養科の活動を積極的に一般公開し、できるだけ、生徒の感想や活躍する姿を掲載しました。

来年度の課題は、今年度の活動を継続しながら、さらに信大や清泉女学院大学との高大連携を深めたり、国際的な舞台で活躍する卒業生の活躍を紹介し、生徒の啓発に努めたいです。

今年度の活動

（表の中の 1-7 は国際教養科 1 年、2-7 は国際教養科 2 年のクラス）

月	行事・計画等
4月	16日 第2外国語授業（韓・中・仏・独）開始（1-7・2-7、社会人聴講生8名） 17日 台湾鳳山高級中学校生徒42名訪問 学校交流 20-21日 長野マラソン海外一般選手参加者受付（2-7希望者4名）、国際交流ブース（1-7全員） 27-28日 春季英語合宿（長野市小山区長野教育センター）★昨年度より継続2年目 （1-7 41名（全員）、2-7 2名、普通科1年4名も含め47名が参加） 神田外語学院講師3名が指導
6月	21日 海外語学研修入札→ CIT 国際研修センターに決定（研修先は米国東海岸コネチカット州）
7月	11日 国際教養科講演会① 福元満治先生（ペンシャワール会事務局長）（国際教養科1～3年） 演題「アフガニスタンに命の水を 国際協力の28年」 24日 国際教養科1年生 善光寺英語ガイド講習会（1-7全員）

	31日	中学生体験入学 国際教養科の説明、在校生との交流、英語の体験授業実施 (1-7, 2-7)
8月	14日	長野県新規 ALT 2 4名を英語で善光寺ガイド (1-7 全員)
9月	13-15日	秋季英語合宿 (福島県 British Hills) (1-7 全員、普通科1年7名の計48名が参加)
10月	16日	米ボストン New Mission High School 生徒 12名訪問 学校交流 (2-7 全員, 普通科1年)
	17日	信州大学教育学部小池浩子先生 高大連携授業①「国際人に求められる要件」 (2-7 全員)
	17日	国際教養科講演会② [性差 (ジェンダー) についての学習、全校平和人権学習を兼ねる] 滝澤 緑先生 (産婦人科医) 演題「産婦人科医が高校生に伝えたいこと」(全校生徒)
	20日	JICA 駒ヶ根 (駒ヶ根青年海外協力隊訓練所) にて、高校生参加型プログラムの体験学習 「国際協力の世界への招待状」(1-7 3名、2-4 2名、2-7 1名の計6名参加)
12月	7・8日	信州大学教育学部 高大連携事業 YOU 遊フェスティバルにスタッフとして参加 (国際教養科2名、普通科11名の計13名が参加)
1月	17日	清泉女学院大学人間学部 室井美稚子先生、和田順一先生、大学生2名 学外授業 「バングラデシュにおける国際貢献について」(2-7 全員)
	23日	信州大学教育学部小池浩子先生とゼミ生徒 高大連携授業② 「異文化間コミュニケーション」(1-7 全員)
2月	19日	国際教養科卒論英語プレゼンテーションコンテスト決勝 (2-7 全員)
	6日	前期選抜試験実施
	18日	第二外国語地域開放講座 社会人聴講生7人への修了証書授与式
3月	9-22日	海外語学研修 (米国東海岸コネチカット州) (1-7, 普通科1年希望者) 参加者計46名
〔留学生受け入れ〕		
1)WYS 教育交流日本協会 <u>ベルギー高校生女子生徒1名</u> Therese QVERTIMONT 長期 (H24年9月2日～25年6月下旬の9ヶ月) (2-7)		
2)国際交流基金日中交流センター <u>中国高校生男子生徒1名</u> ※中国高校生長期招へい事業 劉 牧言 (1-7) 長期(H25年9月～H26年7月下旬の11ヶ月予定)		
3)コリブリ日仏高校ネットワーク <u>フランス高校生女子2名</u> Eva Gnao (1-7)、Lea Coutant (2-7) 短期(H25年10月19～11月9日の3週間)		
〔留学派遣〕		
1)信濃毎日新聞第2回学生記者海外派遣 <u>長野西高生男子1名</u> 米国特派員派遣 前田 惇超(2-7) H25年7月28日～8月4日 (8日間)		
2)文部科学省主催 日韓高校生交流派遣 <u>長野西高生女子1名</u> (韓国語選択者) 韓国派遣 越 朝佳(2-7) H25年10月27日～11月1日 (5泊6日)		
3)長野県教育委員会主催「未来塾ながの in 韓国」 <u>長野西高生女子2名</u> 訪韓研修派遣 田中陽子(2-1)、倉井千奈(2-7) H25年11月17日～11月23日 (6泊7日)		
4)コリブリ日仏高校ネットワーク <u>長野西高生女子2名</u> (フランス語選択者) フランス派遣 笠原亜美(1-7)、陸 実結(2-7) H26年3月15日～4月6日 (3週間)		
5)国際交流基金 高校生「ふれあいの場」訪問事業 <u>長野西高生男女各1名</u> 中国派遣 丸山未来(2-7)、前田 惇超(2-7) H26年3月23日～3月29日 (1週間)		
〔第2外国語の地域開放講座 (箱清水の地域の皆さん)〕		
<u>中国語1名 (2年目)、韓国語5名 (1年目3名、2年目2名)、ドイツ語1名 (1年目) の計7名 受講</u>		

〔入賞関係〕

- 1)第15回 ブリガム・ヤング大学ハワイ校全国高校生英語スピーチコンテスト長野県大会
準優勝 宮坂 愛里(1-7)
- 2)第31回 全日本中国語スピーチコンテスト長野県大会
朗読の部 優勝 テープ審査で全国大会出場 前田惇超(2-7)
- 3)第21回長野県高等学校英語ディベートコンテスト
4位入賞、全国大会出場 英語班(1-7、2-7)
- 4)第10回長野県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト
レシテーションの部3位入賞 宮坂愛里(1-7)
- 5)「JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2013」
青年海外協力隊長長野県OB会会長賞 前田惇超(2-7)

卒論プレゼンテーションコンテスト講評

国際教養科2年のLL.Comの授業では、昨年11月から、卒業論文作成に取りかかりました。始めた頃の生徒の英文は、全体的には脈絡がなかったり、表現の仕方が文法におかしく、何を意味しているのか、ALTの先生共々、理解に苦しむことが多かったです。そもそも論理的に、しかも英語で文章を書くというのは慣れないと本当に難しいことだったと思います。しかしながら、主題文、支持文(具体例や理由)を意識したパラグラフライティングの構造、3つの論点とその根拠となる豊富な文献やデータのリサーチ、論理的な文章にするための「つなぎの言葉」の活用などを3回に及ぶ書き直しの過程で添削や指導を受け、学習したことで、生徒たちの文章は次第に論理的でわかりやすい文章になってきました。

次に、年が明けて卒論が完成した後は、パワーポイントの作成です。特に生徒たちのパワーポイントの技術はすばらしく、卒論の内容をコンパクトにわかりやすく映像化したものが多く、中には、アニメーションをうまく活用し、スライドに動きを持たせ、聴衆を惹きつけるものもありました。



そして、いよいよクライマックスの卒論プレゼンテーションのスタートです。リハーサルを経て、プレゼンテーションは1時間で8人の生徒が実施することを目安に、予選を6回行いました。それぞれの予選で、代表者を決めたのですが、甲乙つけがたく、結局、クラス全体では8名の生徒が予選の代表者になり、2/19(水)に決勝コンテストを行いました。決勝では、どの生徒も選ばれただけあって、レベルは高く、予選の時以上に技術の向上が見られました。

正直な所、本当は何とか8人全員を1~3位に入賞させることはできないものかと何度も考えましたが、結局、1位1人、2位3人、特別賞1人ということにしました。今回、入賞できなかった生徒も立派なfinalistですから、胸を張って自信を持ってください。

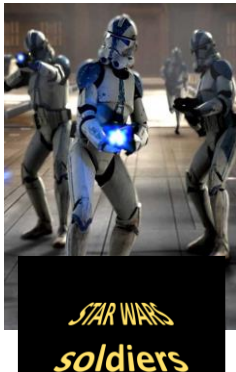
いずれにせよ、2-7クラス40名全員が英語で卒論を書き上げ、その内容を英語で見事にプレゼンテーションしました。時間がかかりましたが、この経験は将来、進学先でも、社会に出てからも必ず役に立つことでしょう。1人ひとりが決めたテーマは、いわば1人ひとりにとっての課題なのです。皆さんは「テーマ=課題」の解決に向かって、真正面から取り組み、見事に乗り越えました。これは、学習面でも、生活面でも、これから人生を生きていく中で避けて通れないさまざまな課題に立ち向かう大きな力になったはずです。

生徒たちの今までの取り組みに敬意を表し、今後の活躍を大いに期待しています。本当にご苦労様でした。

CLOWING



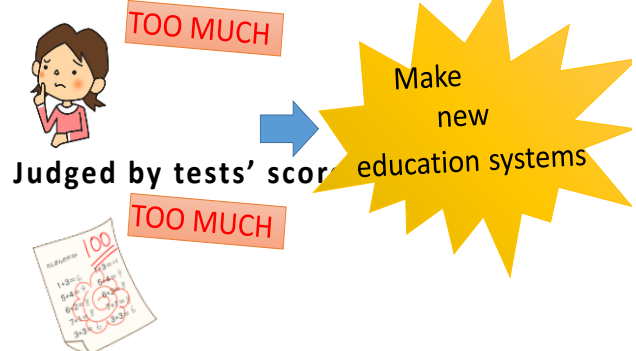
clone sheep
Dolly



Professor
Shinya
Yamanaka



Japan's education problems and improvement
Depend on memorizing



Gender income gap (in Japan)

Regular employees
347500yen
Non-regular employees
224300yen



Regular employees
243300yen
Non-regular employees
168800yen

